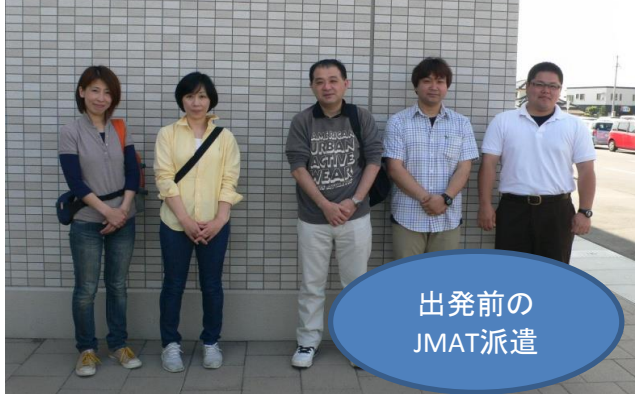


院内ニュース No. 5

平成23年6月9日 発行

JMAT派遣チーム活動報告会！

6月8日(水)宮城県七ヶ浜町にて医療支援を行った職員からJMAT活動報告会がありました。報告会には、ほとんどの職員が参加し被災地の現状を知ることができました。



出発前の
JMAT派遣



空港から津波で流された飛行機

島名先生の活動報告



診察中の
島名先生

5月9日に宮城県七ヶ浜町に入り、5月13日まで七ヶ浜町中央公民館避難所を拠点に医療支援を行いました。仙台空港に到着し実際に現地の被害状況を見て、津波の恐ろしさを痛感しました。医療活動の方は約2ヵ月が経過し、急を要する疾患はなく、感冒、高血圧等の処方といった慢性期の対応が主な仕事でした。今後は精神的なケアとともに被災者の方々が少しでも早く元の生活に戻るよう、長期的な支援が必要と思われます。



崩壊寸前の家



壊れた沢山の車

清水さんの活動報告



羽田空港から空路で宮城県入りしたが、飛行機の窓から見えた光景に愕然としました。なんとも表現のしようもない荒野に人間の無力さを感じました。避難所の方々は予想以上に元気で、自ら片付けやボランティア参加に力を入れておられました。普段の生活とかけ離れている状態で、地道に地元復興のために頑張っている姿に感銘を受けました。もっと、被災者の皆さんのために何かしたいと思いました(本当に帰りたくなかったです…)

松田先生の活動報告

4月23日から28日まで東日本大震災により壊滅的打撃を受けた宮城七ヶ浜町の中の避難所のひとつである七ヶ浜中央公民館での医療支援を行いました。仮設診療所の患者対応は、長期の避難生活による呼吸器障害などが主でしたが、心の不安を打ち明ける患者も多く見受けられ、また無邪気に遊ぶ子供たちが、実は両親を亡くしていることなど、言葉に詰まり、涙があふれることもありました。今回派遣の機会を運よく与えて頂いた私たちは、いつか宮崎でも起こりうる自然災害に対して、今後積極的に対応策を考えていかなければいけないし、また万が一災害が起こった時には、先頭に立って医療支援を実践していかなければいけないと考えています。重機で積み上げられたがれきの山や、跡形もなく流された住居地など、想像以上に悲惨な状態をみて、また深く被災者の心情をくみ取っていくことで、どれだけ科学が発達しても、人間は、決して自然災害をおさえることはできないことを目の当たりにして、また想像を超えた被災者の心境を知ることができました。今までの当たり前の毎日が、実は当たり前でないという事を肌で感じる事ができたのは、私たち自身にとって大きな収穫があったと考えています。



川原さんの活動報告



震災後の宮城に派遣として参加致しました。理学療法士として自分に何が出来たのか、帰ってきてからも考える日々が続きました。でも、実際の現状を見ることで、被災地の悲惨さを周りの人たちに伝えることは出来たと思えました。被災地の状況は刻々と変化していますが、これからも支援できるように「伝える」ことを続けて行きたいと思えます。

武田さんの活動報告



被災地の方々は、1人1人が上を向いて1日も早い復興に向けて少しずつ進んでいるのが話して感じました。活動をする中で、被災者の方々に勇気づけようと考えていましたが、結果的には自分自身が沢山勇気づけられ励まされたような気がします。そんな不思議な感覚でした。貴重な経験を今後の業務に生かしていきます。



七ヶ浜町の街並み



がれきの山

武田師長と大神さんの活動報告



診察室

緑の多い宮崎とは対照的で、震災発生から2ヶ月の宮城の風景は茶色・・・。
 5月8日から仮設住宅への入居も始まり、仕事や通学で昼間の避難所は閑散としていました。受診者が少ないこともあり、島名先生と3人でドキドキしながら仮設住宅への訪問。「遠いところから有難う」という言葉にホッとした。現地の方から津波の話(なまりが強くて分らなかったけど・・・)、柴田理恵似の武蔵のママから「1週間もいれば分るよ」と避難所の生活の辛さも聞いた。私達が想像もできないほど恐ろしい体験だったと思うが、七ヶ浜の人々は明るかった。小林に戻り仕事があること、家族が健康であること、好き



東日本大震災報告会

5月27日(金)淡水魚料理店いこいの家で東日本大震災の報告会がありました。NPO法人・エコワールドきりしまが、この会を開いてくださり島名先生、松田先生が被災地で行った医療支援活動を報告しました。報告会には、約70名の方が来てくださりこの会のおかげで、少しでも多くの方に被災地の現状を伝えられたと思います。



松田先生



島名先生